

1年生は、春から一人ひとり、アサガオを育てています。子どもたちは毎日登校してくると、真っ先に自分のアサガオの鉢のところへ行き、水やりをしました。発芽した時、葉が大きくなった時、ツルが伸び始めた時など新たな発見があった時には、子どもたちはいつも嬉しそうに教えてくれました。花が咲き始めると、「水色の花が咲いたよ。」「きれいな紫色だったよ。」と色とりどりに咲く花を楽しんでいました。アサガオは観察するだけでなく、花を使って色水を作ったり、しおり作りをしたり、図工の学習ではクレパスと絵の具で絵をかいたりしました。

花の季節が終わっても、アサガオを使った活動は続きます。今度はツルを使ったリース作りや種を集める活動などを予定しています。アサガオは初めから終わりまで、工夫の仕方によって、様々な学習で活用することができます。

子どもたちが大切に育ててきたアサガオの種は、2年生になった時に新1年生にプレゼントします。今年の4月に2年生からプレゼントされたように、今度は子どもたちの思いと一緒に次の1年生につながっていくことでしょう。



3年生の理科「チョウを育てよう」の単元で、モンシロチョウを育てました。学級園にあるキャベツの葉について卵を見つけ観察を始めました。生まれた幼虫がエサを食べ、少しずつ成長していく姿に感動と愛着を感じ、大切に育てようとする気持ちが芽生えてきました。休み時間に幼虫を観察する児童や新しいエサをとりに行く児童がたくさんいました。その後、さなぎになり、成虫へ変わっていく姿を間近で見ることができました。

また同時にホウセンカを育てました。水を与えたり、成長の様子を観察したりと、意欲的に育てる姿が見られました。

小さな命を大切にしようとする気持ちと、自分の役割を忘れずに行うなどの責任感が芽生え、たくさんのチョウを放すことができました。成虫になったチョウを空に放す際、手を振り、別れを惜しむ姿がとても印象的でした。



6年担任 伊藤 玲奈

6年生は、5年生の時に就学時健診でお世話をした子どもたちが4月に1年生として入学してくるのを心待ちにしていました。入学式で手をつないで入場してから毎朝、上履きへの履き替えやランドセルの片付けなど、学校生活のスタートをサポートしてきました。「1年生かわいいよ!」「もうほとんどの子の名前を覚えたよ!」など、毎日の交流の中で、下学年にどのように接したらいいか考えることを通して、相手の立場に立って思いやる心や優しい気持ちが自然と養われていきました。

5月の連休明けで終了した朝のサポートから1か月経ち、6月の体力テストでも交流を行いました。1年生と6年生がペアになり、体力テストの各種目のやり方を教えたり、記録をとったりします。1つの計測が終わると、「頑張ったね!」と頭をなでたり、「僕よりもすごい記録だよ!」と励ましたりして、1年生に寄り添う6年生の姿がたくさん見られました。また、初めての水泳学習ではバディになり、プールでの活動のルールややり方をサポートしました。

6年生が学校生活の手本となって全力で頑張る姿や落ち着いた立派な態度を見せることで、1年生は成長への憧れを抱き、安心して楽しい学校生活を送っています。1年生と6年生のように5学年差がある子どもたちどうしの交流ができるのは小学校ならではの事です。大人が教えるのではなく、交流の中で自然と育まれていく心を大切にしていきたいと考えています。

3年生では、打楽器をつかって「春の音楽」をつくりました。自然の音に耳を傾けたり、春のようすを思い浮かべながら、思い思いに春の音さがしをしました。楽器には正しい奏法がありますが、音楽をつくる活動ではイメージに近い音にするために、余計なルールはありません。たたく楽器もこすってみたり、いろいろな素材のバチで音を出してためしてみたり、音をさがしている時の子どもの姿はきらきらしています。自分で見つけた音と友達のつくった音を重ねてみると春のけしきが彩られます。友達がつくった春の音楽から聴いている子もいろいろな自然の様子を思い浮かべることができました。自然の美しさややさしさを感じることから自然を慈しむ心が育まれるのかもしれない。

4年生の音楽づくりでは、ラテン楽器でリズムづくりをしました。友だちの打つ拍を感じて音を重ねていき、終わりがたを考えます。終わりがたのテーマは「大人が考えつかないことをする」。リズムに言葉をあてはめてポーズをつくったり、となりの友だちの楽器を順番にたたいたり、子どもの想像力は本当に豊かだなどいつも感心します。学校だから楽しいこと、友だちと一緒にだからつくれることを音楽の授業でも大切にしていきたいと思います。



いいこといいもの

ずっと つながる

平成30年度目黒区立五本木小学校
ユネスコスクールだより 夏号
平成30年9月12日
「いのちのボタンをつなぐユネスコスクールの子」
<http://www.meguro.ed.jp/meghngeh/>

エコグリーン委員会担当 吉武 千恵

ユネスコスクールである本校は、「五本木小 ESD ビジョン」に則り、「いいこと いいもの ずっとつながる」のために、教育活動全体を通してみんなで考え、問い続けています。5・6年生16名からなるエコグリーン委員会は、「五本木小学校を 地球に優しい 緑あふれる学校に」を合言葉に活動しています。主な活動としては、エコキャップ（ペットボトルのキャップ）の回収、ごみの分別とそのPR活動、エコチェック活動、緑や花を育てる活動などです。それらの活動の中でエコグリーン委員会が大切にしていることは、「考える」「対話する」「行動する」の3つです。どうすればみんながキャップ回収に参加してくれるのか。どうすればごみの分別が分かりやすくなるのか。それぞれが考えたら、みんなで対話し知恵を出し合い、行動します。それでうまくいかなければ、また考えることから始めます。主体的に活動する楽しさに気付いた子どもたちは、驚くような行動力を発揮します。後期、子どもたちからどんな「いいこと」「いいもの」が生まれてくるのか、今から楽しみです。